



東慶寺

鎌倉市老人クラブ連合会

発行人：奴田不二夫

編集人：原田 光

門田 京蔵・伊藤 実

赤井 明郎・中村 幸一

〒248-8686 鎌倉市御成町18-10

鎌倉市老人クラブ連合会(通称・みらいふる鎌倉)

☎(0467)61-3930

第69号

印刷・編集協力 (株)博報社 大阪本社／広告制作 (株)博報社 関東支社 神奈川県厚木市愛甲1-8-39 ☎(046)280-6001

鎌倉市老人クラブ連合会(みらいふる鎌倉)
創立50周年記念祭事業実行委員会
が立ち上がりました

平成26年11月開催予定の鎌倉市老人クラブ連合会(みらいふる鎌倉)創立50周年記念祭事業に向け11月8日に実行委員会が立ち上がりました。

実行委員長 鈴木 義雄

副委員長 羽鳥 光男

*記念祭事業につきまして会員の皆様のご意見をお待ちしております。



トピック

★小学生に戦争の体験語る

9月5日、市立今泉小学校にて4年生児童72名との『戦争体験を語る』交流が行われました。このようは鎌倉ケーブルテレビにも放映されました。*詳細は3ページに掲載

★3世代交流 鎌倉「さかなまつり」



11月4日、鎌倉「さかなまつり」(朝市)・3世代交流会が行われ、鎌倉で獲れた魚・野菜を使った「つみれ汁」を子どもたちと一緒に作り、子ども・親・シニアの3世代が交流しました。このようは今ケーブルテレビで放映中です。

★「しめなわ」づくりを指導

12月14日に市立大船小学校の5年生児童70名に「しめなわ」づくりの作り方について、みらいふる鎌倉の会員たちが指導にあたります。

あした輝く みらいふる鎌倉!

創立50周年に向けて 事業をさらにオープン化



笑顔咲くレクリエーション事業

自分らしく
輝く明日スポーツ事業で
健康促進

さあ、私たちと一緒に! ご入会をお待ちしています

みらいふる鎌倉はまもなく創立50周年を迎えます。これまでも介護予防と仲間づくりの観点から健康づくり事業、文化事業、レクリエーション事業等を積極的にすすめてきましたが、今後益々各種事業のオープン化をすすめて会員のメリットを高めていこうとしています。まだ未加入の皆さん、一度活動を覗いてみてください。あなたを輝かせる活動がきっとみつかります。

鎌倉市の人口 178,397人 高齢化率(65歳以上)全市28.05% 鎌倉市老連会員数3,809人 地区別 鎌倉地区1,334人(35%)、腰越地区451人(11.8%)、深沢地区700人(18.4%)、大船地区696人(18.3%)、玉縄地区628人(16.5%) 平成24年9月末現在 ©数字は住民基本台帳をもとにしています

★鎌倉市老連ホームページアドレス <http://www.miraifuru-kamakura.com> ★メールアドレス info@miraifuru-kamakura.com

みらいふる鎌倉 各部会だより

総務部

重責に緊張感と感謝の心

部長 沖田 俊昭

私たち“みらいふる鎌倉”が創立 50 周年を迎えようとするこの時期に総務を担当することに重責を感じております。企業戦士として頑張り終えた今も緊張感をもって、何かをしなければならない立場を持たされていることには感謝です。

ここまで“みらいふる鎌倉”を育て上げてくださった諸先輩には、頭を垂れるのみでございます。

我々後輩のためお示しく下さいました元気な高齢者なら出来る、社会奉仕活動等の道標、何時までも大切にいたして参ります。

楽しい老後のため、感謝を忘れず、「人は大きく己小さく」の精神で大人らしくありたいと思っている今日この頃です。



勢年部

部の現状と未来像

部長 羽鳥 光男

当部は「みらいふる鎌倉」の未来を象徴するような特色のある部。青年のイメージで勢いあふれる若々しい部をつくろうという発想で、当時の奴田副会長（現会長）の肝入りで平成 21 年 3 月、盛大な発足式のもと誕生した、「みらいふる鎌倉」の中で最も新しい部である。

平成 21 年は、市老連創立 45 周年にあたり記念事業として同年 11 月、聖路加国際病院理事長 日野原重明先生を迎えて記念講演会の開催（鎌倉商工会議所）に係わり、以来「各種記念事業の取り組み、加入促進、組織の強化」の命題に取り組んで、22 年度「私の大正、昭和史（戦前、戦中、戦後）の編纂、23 年度、創立 50 周年記念を踏まえての「会員アンケート調査」の実施と分析表の作成などを実施してきた。これからの事業目標は、①大正、昭和史の続編の募集と編纂②創立 50 周年記念事業の計画の検討である。いずれにしても会員の皆さんのお知恵をいただかなくては成し遂げないことなので、お力をお借りしたいと願っている。当部としては、部発足の原点に立って活動をしていきたいと思っている。



女性部

この 1 年の活動

部長 相澤 静子

女性部は大分高齢化してきましたが、幸い、今年から多くの新人の方が加わりましたので、主に次の事業を元気に進めております。

1. 特養施設への毎月の訪問 ①プライムきしろ ②七里ヶ浜ホーム ③鎌倉静養館

毎月 6 人体制でお伺いしておりますが、お話し合いや繕い物が喜ばれます。みらいふる鎌倉のエプロン姿も評判です。

2. 福祉バザー 毎年 9 月の第 1 日曜。皆さんからいただいた多くの献品を大きな声をあげて販売し、喜ばれています。

3. 年末の施設への慰問 バザーでのハギレなどを縫い合わせ、綺麗な膝掛けを 20 枚ほどつくり特養施設へ届けますと、暖かいと喜ばれています。また、タオル布ぎれも皆さまの心尽くしと喜ばれています。これが、女性部 1 年間の活動です。



スポーツ部

門戸を開放して活性化

部長 若山 敬元

今年のスポーツ部事業のうち、第 17 回グラウンドゴルフ大会と第 3 回「歩こう会」は例年と異なり、事業の予算が「みずほ教育福祉財団」による助成事業で「チャレンジ！地域の元気づくり」事業の一環として実施するもので、その主旨は、既成の老人会の門戸を解放して一般市民と一緒にスポーツを楽しむことで老人会の活性化を図り、ひいては地域社会の交流を目指すことにあります。5 月に開催した笛田でのグラウンドゴルフ大会では、一般の方も多数参加していただき、男子の部では優勝もされました。鎌倉市単位老人クラブのサークル活動にスポーツとしてグラウンドゴルフのほかにパタンク、ゲートボールなどがありますが、グラウンドゴルフの人口が一番多いようです。そのグラウンドゴルフも老人クラブという枠をはずして、一般市民と技を競えば、さらに発展すると思うし、交流も深まると思います。11 月に開催する「歩こう会」も 3 世代交流で、一般の方とも一緒に「鎌倉の原風景を歩く」企画です。広報がまくらでも募集します。



みらいふる鎌倉の動き

市老連活動の報告と情報のコーナー

戦争の体験を語る

市立今泉小学校
4年生72名との交流

鎌倉市文化人権推進課より、市立今泉小学校の児童たちに戦時中の体験談を話してほしいとの要請があり、9月5日、市老連より奴田会長はじめ6名が今泉

小学校を訪れました。当日は、4年生の児童72名が集まり、教養部の原田部長を司会進行に始めました。市老連からは先の戦時中に学童疎開を引率された市内在住の田尻千代子さんと、当時学童疎開を体験された星野さんと石山さんの体験談が語られました。後日、小学校の先生から児童たちが子どもらしい言



葉で書いた率直かつ素朴な感想文が送られてきました。感想文には、「今まで

知らなかった戦争による数々の悲惨さ」「親から離れ、先生とクラスメイトだけで田舎のお寺に疎開した子どもたちの寂しさ」「一粒のお米のありがたさ」「お寺の階段に座り、ふるさとの鎌倉の方角を眺め、皆で泣いたこと」「戦争による多くの被害と今の平和のありがたさ」「戦争を体験されたご年配の方々への思いやり」などが書かれていました。

このもようは、鎌倉ケーブルテレビの「鎌倉元気のススメ」で10月に放映されました。

7月29日、みらいふる鎌倉厚生部主催による「ふれあいダンスパーティー」が開催されました。

奴田市老連会長の挨拶の後、パーティーがスタート、軽やかなステップでダンスを楽しみながら、交流の輪も広がりました。



教養部

愛される「やまもも」に

部長 原田 光



近く創立50周年を迎えるにあたり、教養部が担当してきた「やまもも」の69号が発行され、教養講座も来年には49回を迎えます。

これらを今日まで支え、発展させてこられた、諸先輩各位のご努力にまず、深い敬意と感謝の言葉を捧げたいと思います。

『やまもも』が今まで以上に、みらいふる会員に親しまれ、愛されるために、いろいろと相談して参りますが、まず、みなさんの活動の姿をより多く紹介していきたいと考えております。

それには、皆さんからより多くのご投稿が集まるように留意して参ります。また、創立50周年の記念事業についても関係部門と手を携え、全力を傾注して参りますので、よろしくご協力ください。

厚生部

多くの参加を得る事業に

部長 小原 英雄



厚生部会は、夏のカラオケ大会、秋の横浜栄区の福祉大会そして芸能祭の3件を中心に部会を開催しております。

それぞれ時間を要する作業があり、部員一丸となって取り組んでおりますが、参加者の皆さまには、まだまだ納得していただいてないと思っております。

今年度は、カラオケ大会参加費、前年度の半額500円と福祉大会参加費500円を無料といたしました。

未来像としては、多くの会員さまが参加しやすく、部員の負担軽減ができるような方法、歌に関係ない新分野で幅広く多くの参加者に喜んでいただける催し物ができればと思っております。

会員の皆さま、ご提案くださいますようお願いいたします。

みらいふる鎌倉 秋期研修親睦旅行

北陸二大名湯めぐりと
兼六園、巖門遊覧船の旅

9月24日から26日、秋期の研修親睦旅行として北陸二大名湯めぐりと兼六園、巖門遊覧船の旅を行った。

早朝、鎌倉の各地から2台の大型バスに搭乗した会員の皆さん70名は、お互いに近い座席の方々とこれからの旅の楽しい話題を交わした。車は恒例の大黒PAから外環―関越道―上信越道―北陸道―能登有料道路を4回の休憩を挟み、一路和倉温泉に向かい疾走した。

その間、バスガイドの芳賀幸子さん（一号車）の少し訛の入った楽しい巧みな観光説明に笑いが絶えず、また廣幡ドライバー（通称・班長）の見事な高速の安全運転によって、快調に和倉温泉「日本の温泉のと楽」に予定通り到着した。それ

にしても、その間の全ての高速道路の完備とトンネルの多さ、こんな辺境の地までと、その整備の良さには感心した。



宿泊した「のと楽」はさすがと言える名旅館で、宴会場での大宴会も多くのカラオケ名人の登場で、楽しいひとときで盛り上がった。

翌日、能登金剛、気多大社から千里浜なぎさドライブウェイでは、廣幡ドライバーが皆の要望に応えて数回も渚深くまでドライブし、喝采を浴びた。兼六園の素晴らしさは、この季節でも期待に込めてくれた。この地の名物とされるにわか雨も、わずかの時間で済んだ。

1円玉等活動基金 有効利用についての 検討をはじめました

懸案の1円玉等活動基金の運用について委員会を立ち上げ、検討を開始しました。

◇管理運営委員会

委員長 沖田 俊昭

副委員長 立川 光造

*ご意見等があれば委員長の沖田までご連絡ください。



会員の心を持ち寄った大切な基金、有効活用を皆で考えよう！

◆表紙の写真 東慶寺

正式名称は松岡山東慶総持禅寺で、臨済宗円覚寺派に属し、円覚寺と鎌倉街道をはさんで向き合っています。

創建は弘安八年（1285）開山は鎌倉幕府八代執権時宗の妻、覚山志道尼で、開基はその子、九代執権北条貞時となっています。



この寺の住持は五世用堂尼は後鳥羽天皇の皇女、20世天秀尼は豊臣秀頼の息女と、代々名門出身で、「鎌倉御所」とか「松ヶ岡御所」とも称され、また室町時代には尼寺五山の第二位に格付けされています。

駆け込み寺、縁切り寺として知られていますが、覚山尼の強い慈悲のところが縁切り寺法という形をとって約600年の長きにわたって不幸な多くの女性達に手を差し伸べてきたからなのです。

しかし明治4年縁切り寺法は廃止されて寺は衰退し、明治35年には男僧の寺にかわりしました。明治から大正にかけて住持であった釈宗演禅師は、政治家、軍人、実業家、学者、文人と幅広い層に多くの信者を持ち、又弟子の鈴木大拙居士共に禅を世界に広め禅の道場とも言われました。

江戸時代は紀行文や川柳に、明治以降は小説、短歌、俳句など多くの作品に描かれ、文学にゆかりの深い寺として知られ、境内や、墓地には文学関係の碑が多く建っており、また多くの寺宝もあって興味が尽きない寺です。

鎌倉ではこの寺ほど多くの著名人が眠っているところはなく、境内では四季折々多彩な花々が訪れる人々の心をいやしてくれます。(A)

耳より情報

★会員様向けの特典

鎌倉市老人クラブの会員証を持って「エイド補聴器鎌倉大船店」に来店した方へ、補聴器商材を販売価格から10%割引
※一部商材を除く場合があります。

■エイド補聴器 鎌倉大船店

【住所】

鎌倉市大船2-21-15
浜田第2ビル1F

【電話】

0467 (47) 3373

【FAX】

0467 (47) 3375

【営業時間】

9:00～18:00

※出張・時間外相談可（無料）

【定休日】日曜・祝祭日

お盆休み及び年末年始

■エイド補聴器 会社HP

<http://aid-hochouki.com/aid/index.html>

「きこえ」を安心して届けたい、補聴器のことなら
認定補聴器専門店 **エイド大船店**

安心をお約束

- ・親身なカウンセリングと豊富な経験から、あなたに最適な補聴器を選択します。
- ・購入後の調整はもちろん無料。買ってからも安心です。
- ・アフターサービスも万全です。出張も無料です。

取扱メーカー

- ・GNリサウンド
- ・フォナック
- ・シーメンス
- ・スターキー
- ・ワイデックス
- ・オーティコン
- ・他主要各メーカー

※補聴器購入前に耳鼻咽喉科の受診をお勧めします。

鎌倉市大船2-21-15 浜田第2ビル1階 まずは
☎(0467)47-3373 お電話下さい

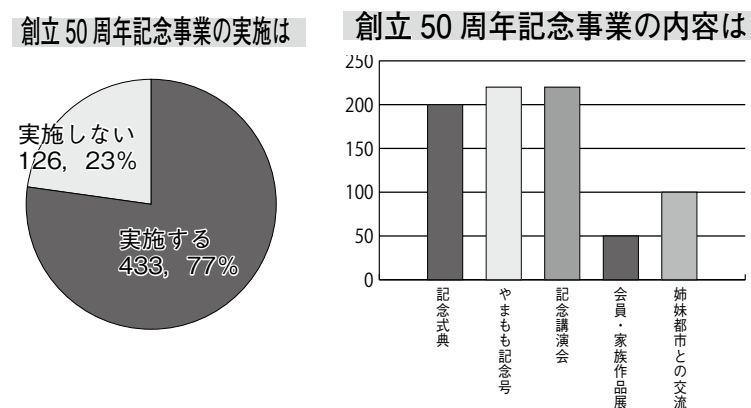
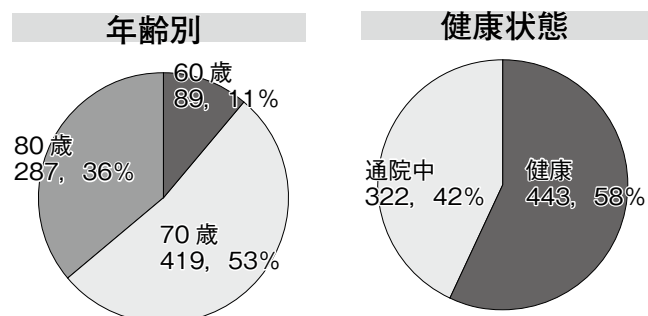
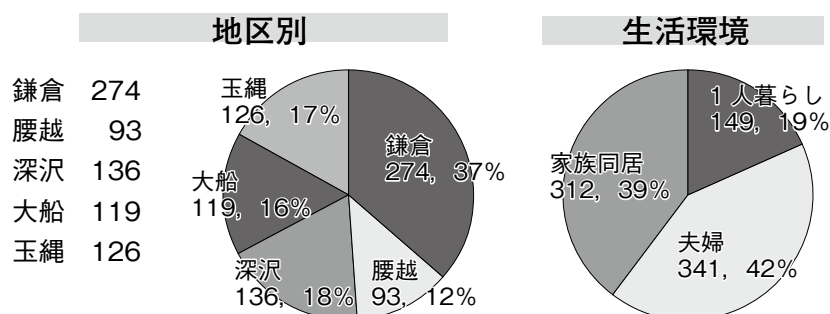


～みなさん ご協力ありがとうございました～ みらいふる鎌倉会員アンケート調査報告

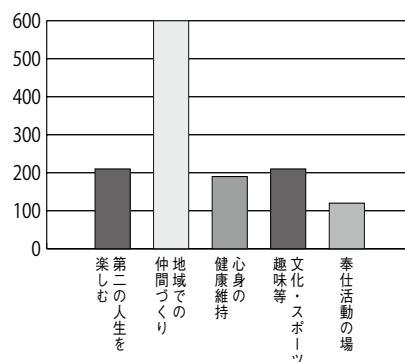
鎌倉市老人クラブ連合会(みらいふる鎌倉)が平成26年9月に創立50周年を迎えるにあたり、勢年部では会員の現状、会の将来展望、創立50周年記念事業の対応等を中心にしたアンケート調査を会員1000名を対象に実施しました。822名の会員の皆様からご回答をいただき、その調査結果が出ましたので、その一部を次の4つの視点に絞ってグラフ化するとともに、回答全体から読みとれたものを報告いたします。

1 会員の現状**2 老人クラブに何を期待するか。また、自らは何をすべきと考えているか。****3 今後老人クラブはどのように発展すべきか。****4 50周年に向けての意見**

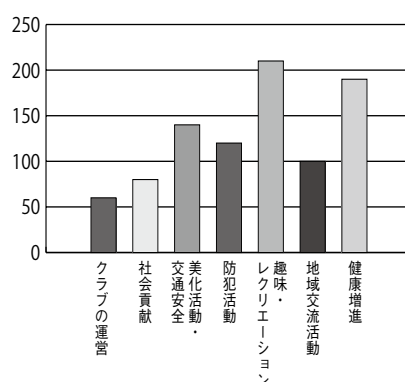
(勢年部 部長 羽鳥 光男)



老人クラブとは本来どんなものか。何を期待するか



クラブ活動や行事で新たに取組みたいもの

**アンケート調査(全体)から読みとれたもの**

- ・アンケート回答の中心年齢→70歳代(うち女性6割、男性4割)
- ・老人クラブに入会して良かった→8割近くが「良かった」と回答
- ・加入促進について→8割強がクチコミで友人を勧誘していると回答
☆よい活動をすれば必ず入会してくれる、との意見多数
また、自治会と協力したり、パンフ、マニュアル作成の声もあり。
- ・老人クラブの内容は理解していて、参加している→8割強
☆活動の内容に満足している、との意見も8割近く
※ 同じことの繰り返し、マンネリ化との意見もあり、趣味活動、レクリエーション活動や健康増進活動をもっと実施してほしいという意見も。
- ・みらいふる鎌倉について→会員の7割以上が活動に参加している。
☆特に老人大学、グラウンドゴルフ、日帰り旅行参加者多数。
- ・事業の受益者負担→7割近くが必要、必要なしは1割未満

アンケートご協力の御礼

アンケートにご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。みらいふる鎌倉では、これまでも「老人クラブの活性化」を掲げ、様々な活動を通じてクラブの刷新を図って参りましたが、今回のアンケートのご意見を受け、さらに

新たな活性化・会員増強、また平成26年に迎える創立50周年に向けて、今後のみらいふる鎌倉の活動のあり方、方向性についての検討材料とさせていただきます。

みらいふる鎌倉 会長 奴田不二夫

平成24年度功労者のつどい&第14回芸能祭

5年在職功労会長表彰
山崎第一あかね会
日野三朗さん
「一人ぼっちの高
齢者をなくした
い思いで活動に励んできました。
今後も皆さんのご協力のも
と頑張っていきたいです」。

一般功労会員表彰
笛田東芝柏桜会
阿蘇品久美代さん
華道家の阿蘇品
さん。会の新年
会等で生け花の奉仕をされるな
ど永年に亘り会の活動に貢献さ
れ、今回の受賞となりました。



華やかな芸能祭



平成24年度功労者のつど
いが11月9日、鎌倉生涯学
習センターホールで開催さ
れました。また同日同会
場で、第2部として第14
回芸能祭も引き続き開催
300名近くの参加者が集
いました。

午前10時、沖田副会長の
開会のことばで式典が幕を
開け、君が代斉唱、みらい
ふる鎌倉歌の合唱に続き奴
田会長の挨拶がありました。
会長はその中で「市の
高齢化率が28%を超えてき
た今、私たちが第1に考え
るべきは介護予防。医療費
削減にもつながり社会貢
献にもなる健康づくり事業の
益々の展開を図りたい」と
述べ、協力を求めました。

松尾市長はじめ来賓の挨
拶と紹介の後、表彰式に移
り、優良老人クラブ、10年
在職功労会長、5年在職功
労会長、一般功労会員など
78名が受賞しました。

表彰者謝辞、伊藤副会長
による閉会のことばで式典
が終了。昼食を挟んで開催
された芸能祭には38組が出
場。栄区からも参加を得て、
午後4時まで華麗な舞台と
声援で賑わいました。

民舞「おてもやん」
山崎第2あかね会
武田なかさん（92歳）
チャーミングな舞
姿で観客を魅了した武田さん（左）。踊りの他
にも小物づくり、体操、見守り活動等にも忙
しい毎日。踊りのお師匠さん（右）は「お元
気さ、あやかりたいですね。私たちのお手本
でありアイドル的存在」と大絶賛でした。

フラダンス
鎌倉第一 プルメリア
田邊芳枝さん（87歳）
「日舞を13年、詩吟も30
年やっていますが、フラダンスの衣装にあこがれて
始めました」と微笑む田邊さん。そのフラダンスも6
年になり、今は皆さんと一緒に施設慰問等で披露す
る毎日。「元気の秘訣は、やっぱり踊ることとボラン
ティアかな。人様のお役に立つことが生きがいです」。

南波 武さん
北鎌倉ひのき会
「最初は簡単そうに思え
るけど、やればやるほど
はまってきます」

江藤 健夫さん
手広喜楽会
「個人競技なので気が楽。
歩きながらプレーするの
で、健康にもいい」

加藤 好雄さん
坂本町気楽会
「みんながスコアに関係なく、
楽しくプレーしているのを見
るとこちらも嬉しくなるよ」

寺下 幸子さん
白扇会
「始めてばかりですが、皆さ
んが優しく教えてくれたの
で、とても楽しかったです」



第17回みらいふる鎌倉グラウンドゴルフ大会

170名が笛田運動公園に大集合！

大会結果

〈男子〉	優勝	小出徳三郎（一般）
	準優勝	田中 信重 （十二所ちとせ会）
	第3位	山下 忠 （極楽寺若葉会）
〈女子〉	優勝	臼井 淳子 （十二所ちとせ会）
	準優勝	広田喜代子 （中央和光会）
	第3位	加藤 久子 （末広シルバークラブ）

5月24日、第17回みらいふる鎌
倉グラウンドゴルフ大会が、笛田
運動公園で開催されました。

参加した170名（平均年齢78
歳）は、それぞれの組に分かれて
8ホール2ラウンドの試合を行
い、日頃の練習の成果を競いまし
た。この日は絶好のスポーツ日和
となり、参加者は同組になった他
地区の参加者とも交流を深めな
がら、心地のよい汗を流しました。

試合終了後にはホールインワ
ンゲームも行われ、ホールインワ
ン達成者は笑顔で賞品を受け取っ
ていました。また、表彰式では男女
10位までの入賞者と指定ホールの
ホールインワン達成者11名に賞品
が贈られ、大会は幕を閉じました。



優勝者喜びの声

★男子 小出徳三郎さん（一般）
「今日は運が良かった。これからも頑張って練
習して、またこの大会に参加したいです」。

★女子 臼井 淳子さん（十二所ちとせ会）
「初めてこの大会に参加したので、まさか優勝
できるとは。運が良かったですね」。

平成24年度 第48回老人大学「寿講座」

日時/7月10日(火)~13日(金) 場所/きらら鎌倉

1日目 7月10日(火)

「老いを忘れて老いを忘れず」
横井也也「鶴衣」のころー
エッセイスト 岡田芳郎



横井也也は芭蕉を慕った俳人で尾張藩代々の重臣。53歳で致仕、風流生活に入る。「鶴衣」とは26歳から82歳までに書き留めた二百数十篇で、俳文集の最高峰といわれる。内容は随想、身辺雑記、俳諧論、芸術論と多岐にわたり、人生洞察の書。

*老いについての考え方

*六十歳齡説「長く生きることは恥を重ねることである。*老いを嘆く言葉」老いは忘れるのがよい、そして忘れてはならない。生きているのだから元気に楽しむのがよいが老醜は戒めている。*定年後の人生「心豊かに過ごすには、自分らしさを大事にする、軽妙洒脱である、美学を持つ、心の平和を保つ、ユーモアを忘れないこと。」

2日目 7月11日(水)

「3・11大震災から1年」
巨大津波地震と原発事故が残した教訓、
ジャーナリスト
都市防災研究所理事 吉村秀實



原発事故は天災でなく人災
国会・事故調査委員会が7月

5日に最終報告書を提出、国・東電が安全対策を意図的に先送りし、国の危機管理体制機能せず、非難指示も混乱を助長した。国、東電は「過酷事故対策を講じて来なかった」とし、「巨大津波、全電源喪失は想定外」というウソをついてきた。電力業界は「東大話法」を活用して「原発は冷温停止」と、原発安全をアピールしている。揺れる脱原発、再稼働問題には我々一人ひとりが判断することである。

思考のパラダイムの大転換を
原発の安全にコストパフォーマンス論は通用しない。コスト至上主義、営業優先から脱却し、不況時こそ安全対策をが必要である。

3日目 7月12日(木)

「東洋医学による認知症の予防と改善」
学校法人 後藤学園
中医学研究所所長 兵頭 明



正気、生命現象を維持する力
我々の体に備わっている生命現象を維持する力を正気の力といい、7つのキーワードからなっている。この中の気、血、津液、精がしっかり生成、循環していることが正気の充実である。

生成、循環障害がおきないようにするためには、しっかり食べて消化、吸収し、適度に動き、自分にあつた呼吸法を採用することである。
高齢者支える大きな力を作る未来

認知症対策だけでなく不定愁訴に対する全人的ケアが必要。その中には認知症も入っている。やはり、これからの全人的ケアと一緒に東洋医学的な考え方と連携させながら、それを続けることによって健康長寿が図られるのではないか。

4日目 7月13日(金)

「かまくら今昔抄」より
ベストテン・アラカルト
郷土史研究家 清田昌弘



「かまくら今昔抄」は、平成9年から23年まで166話がタウン紙鎌倉朝日に連載され、その後「かまくら今昔抄60話」「かまくら今昔抄60話第2集」として出版されている。今回はその中から10話を選んで話された。

「七里万葉の哀歌」考

作詞をしたのは三角錫子でなく小田原出身の詩人福田正夫。福田正夫が師範学校生の時書いた詩が、三角錫子の作として世に出てしまった。当時いろいろ問題になったが、家族の意向等でそのままになっていた。

このほか、海水浴のはじまり、旧華頂宮侯爵邸の建築、関東大震災と津波、遠い日の「海の銀座」、鎌倉の「海軍さん」、学徒勤労動員の記、八幡宮の石造鳥居異聞、鎌倉文士の貸本屋等々、鎌倉の明治、大正、昭和、そして戦前・戦中・戦後のエピソードや鎌倉文士、鎌倉文化人の逸話などを紹介。

私の大正・昭和史(戦前・戦中・戦後)

子どもたちの明るい未来を願って 次世代に語り継ぐ想い

寺分坂の別れ

寺分楓会 中田 利雄

昭和17年1月8日午前8時、寒風肌身を刺す寒さの中、13名の出征兵士が深澤尋常高等小学校校舎の玄関を背に、南面の校庭に整列した。

深沢地区の出征兵士を送り出す壮行会である。全員この地区で生まれ、この小学校を巣立った同級生である。当時の小学校は校門の左側に奉安殿、右側に二宮金次郎の銅像があった。小学生は朝夕敬礼をして入退門することになった。当日もこの校門を通り抜け学年別に整列した。

兄も右から3番目に並んでいた。既に召集令状は受け取っており、「赤紙」を手に入っていた。

1月10日午前、深沢村の有志の方々が兄の名前が書かれた大きな幟を先頭に「天に代わりて」と大きな声で歌いながら徒歩で大船駅まで送っていた。そして兄はホ



幟

話によれば、現地に着くまではどんなこと

ームの中に吸い込まれるように消えた。

音沙汰がないまま案じていたところ、3月末の日曜日に外泊が許可されたと言って、ひょっこり帰って来た。突然だったので、母は風呂桶に水をバケツで何度も運び、吹き竹で一生涯懸命焚き付け、湯加減を見ていた。



現役兵證書(赤紙) 召集令状

2度目は4月の末で、ちょうど夕暮れ時であった。その夜は、母が用意していた真新しい布団に入って寝ていたことを鮮明に記憶している。この日は兄が戦地(南方)に行くので両親に別れを告げに

来た。父は兄が家を出る前に渡すものがあると、買って来た。父は兄が家を出る前に渡すものがあると、買って来た。

「晒(さらし)」を

があつても海を泳いで上陸せよ。との命令だったようだ。

晒はフカから身を守るため吹き流しに使い、短刀は護身用に使うため父が与えたものだった。父と私が大船駅まで兄を送ったのは翌日の夕方。寺分坂を登り切った時に兄は「この切り通しも最後の見納めか」と言いつて坂の上から我が家の方を振り向いて、しばしの間、立ち止まっていた。父が家に帰って母にこの様子を話す。両親の目頭に光るものがあつたことを記憶している。

父はその直後から伊勢原市にある大山阿夫利神社まで(片道約40キロ)、毎月1回、朝の3時には起きて自転車で兄の武運長久を祈って帰って来た。

昭和19年10月、兄の戦死の報に接するまで(2年半)続いた。

尊い命を一枚の紙切れ(赤紙)によって断たれてしまった時代とはいえ、70年を過ぎた今でも忘れない。いや、忘れてはならない想い出の1つです。そして二度とあつてはならない戦争の悲劇。親子の絆を断腸の思いで切り裂いた「寺分坂の別れ」であった。

ノモンハン（満州国とモンゴルの間の国境）事件の追憶

福寿会 大塚 博三

は聯隊長は自決し壊滅に近く、我々は爪と遺髪を作り封筒に入れ、万一戦死の時は自宅に送るとし、舎前に整列した。その数時間後に停戦の交渉が開始されたりしいという情報が流れて来た。この後、わずかな前線の兵卒は昼間はソ連兵に撃たれるので夜間のみ北斗七星を頼りに帰還して来た。

恐らく、大部隊が急援に来るという情報をソ連側が入手して、早く停戦協定にもち込まれたと思う。国境線は敵方の線となった。

我が急援大部隊の任務は後日知らされたが、ソ連軍の後方遮断という任務。万一、9月初旬の停戦協定が遅れていたら、もちろん私も玉碎していたと思うし、事件でなく戦争という文字に置き換えられていたであろう。

奉褒の軍旗と共に昇天の
玉碎友よ 安らか眠れ

～私の昭和史～ 昭和の刀狩り

稲穂会 本阿弥 光敬

日本刀の存続が危ふまれる出来事が嘗（かつ）てあった。天正16年、豊臣秀吉の刀狩りに次ぐ連合国軍による昭和の刀狩り

です。

昭和20年8月15日、日本のポツダム宣言受諾により第2次世界大戦は幕を閉じた。言い換えれば敗戦。連合国軍は直ちに日本に対し完全なる武装解除を命じた。銃砲、軍刀だけでなく、民間で所有する日本刀、薙刀、槍に至るまで全て軍国主義の遺物、武器と見なし没収する厳しいものでした。

進駐軍が金属探知機を使い、隠匿しても探して没収するとの噂が流れ、日本刀受難の時代となった。全国から提出、没収され海外へ流失した日本刀は莫大なものであったことは想像できます。



刀剣鑑定家の父・宗景は、これでは日本刀の歴史が減びてしまつと、GHQ（日本を占領した連合国軍総司令部）のアメリカ第8軍憲兵司令長官に面会を求め、「日本刀は武器でなく日本人のシンボル、伝統ある文化財なのだから優れたものは美術工芸品として日本に残すべきだ」と掛けあったのです。

昭和21年、この努力が実り美術的価値のある日本刀は保存。大量生産した軍刀など凶器と見なされるものは没収廃棄処分が発令された。父を含む刀剣審査

員64人が内務省より依頼され、私も父の助手として一時、神奈川県内の審査に同行した。戦後の交通事情の悪い中、日本国内各地を踏査。190万余振りを鑑定審査、その中から約7万余振りの優れた日本刀の散逸を防ぐことができた。

「やまもも」への 投稿記事がもたらした 思いがけないめぐり逢い

西鎌倉福寿会 上野 三郎

やまもも第66号に「私と海軍時代の思い出」を投稿したが、その直後突然に「私は伊157潜水艦の艦長の長女松澤優子（旧姓中村）です、記事に人間魚雷回天、徳山の天津島に関係しておられたとありますが、お話を伺いし亡き父を偲びたく一度お目にかかれませんか」と電話があった。艦長は広島原爆で事故死された。その時同じ艦に乗艦の級友（72期）の秋田実君も被爆死した。その状況を73期岩井良平氏の「秋田実君の最後」というブログの記事で見

た。その岩井氏にコンタクトをとると、
①岩井氏は旧姓白石で奇しくも兵学校で1年間同じ分隊で私と寝食をとにした。
②中村艦長は、立派な艦長であ

ったが時には反抗的な気持ちを持ったこともあり、広島行きを同行を勧められたが固辞し、代わった秋田君が私の身代わりになったなど、反省・負目があり、今でも喉に骨がさった状況で悶々としている。

③艦長の娘さんとの出会いが可能なれば、当時の回想をまとめ「艦長への鎮魂」としたい。

その後、平成23年9月に岩井氏より「故中村省三海軍大佐の潜水艦長としての戦歴と伊157潜水艦長時代への回想」と題した110ページに亘る力作の冊子が送付されてきた。それに基つき質疑を交わすという形で、平成23年11月3日、岩井氏の住处・流山での3人の出会いとなった。3時間に及ぶ岩井氏の熱い語りには強く胸を打つものがあつた。松澤さんよりは「思いがけないめぐり逢いで、私にとっては忘れがたいものとなっ

た。亡き父への想いを、かくも温かく心をかけて書いていただいたこと、父はどんなに喜んでることでしょう。今日父は、岩井さんと一緒にいてくれた思いがする」と涙ながらに語られた。
また岩井氏よりは「楽しい一時を過ごせて嬉しく思います。上野さんのお世話で終戦以来抱えて来た肩の荷が軽くなりました」と70年振りの旧友より感謝の意を表せられた。1つの記事から手繰り寄せられた3人のめぐり逢い、目に見えぬ不思議な縁を感じずにはいられない。その縁を作ってくれた「やまもも」に感謝、本当にありがとう。
この後、岩井さんのご希望で、中村艦長の70回忌が菩提寺の性源寺（いわき市平）で今年8月11日（艦長の命日）に行われ、岩井さんのまとめられた前記の書を墓前に捧げることができた。かくして岩井さんの戦後長年にわたる苦しみもやっと軽くなったようである。

写真説明
左より岩井良平さん、中村艦長の長女松澤優子（旧姓中村）さん、筆者上野三郎。





深沢地区で

3つの行事

深沢地区老連

深沢地区は12クラブ・700人の会員を擁し地区内の高齢者福祉や地域社会の貢献に取り組んでいる。

今年は、より地域に目を向けた事業を展開すべく、地区の社会福祉協議会・連合町内会とも提携し講演会や幼稚園児との交流会を行った。



① 深沢の歴史を知ろう

自分の住んでいる地域を知ること、会員だけでなく地域の人々とのコミュニケーションをはかるのに大変役立つ。そんな観点から、2月26日・老健かまぐらで、郷土歴史家の内海恒雄先生を招き、深沢の歴史を知る講演会を開催した。当日は鎌倉の世界遺産登録の正式申請が出された直後だけに関心が深く、

100名を超える参加者があり、候補地の常盤亭跡、大仏切リ通しをはじめ深沢にある史跡の紹介があった。JCN鎌倉テレビのニュース番組にも取り上げられ、老人クラブの理解に役立った。

② 深沢保育園の子どもたちと遊ぶ

我々老人と子どもたちとの世代間交流は、子どもたちの成長に役立つという考えから、地区社会福祉協議会と深沢保育園が一緒になって交流会を開催した。

7月5日・深沢地区老人会から18人、子どもたち40名が参加し、保育園教室で、絵本の読み聞かせ、紙飛行機づくり、おてだま、おりがみなどを中心にした元気な子どもたちと和気あいあいのうちに2時間を過ごした。

おじいちゃん・おばあちゃんたちの持っている体験と知識に触れたことは、子どもたちにとって、とても有意義なことであ



あったと園長からお礼の挨拶があった。我々の方にも子どもたちから元気をもらったとの感想も聞かれた。

最後に、地区から絵本の寄贈、子どもたちの元気な七夕の歌に送られ保育園を後にした。またJCN鎌倉のテレビ放映あり、若いお母さんたちや住民からの反響もあった。

③ 健康には生活習慣病の予防

自分でやりたいことは何でも、そのためには健康でなければならぬ。8月23日・深沢行政センターで、地区の社会福祉協議会と連合町内会の後援を得て、生活習慣病の予防についての講演会を開催した。

参加者は会員67名、一般12名。講師は地元湘南記念病院内科医師の小田弥生先生で、私共の関心の深いがん、心臓病、脳卒中、糖尿病、高血圧などの生活習慣病についてスライドにより分かり易く説明してもらった。講話の後、多くの方から質問があり関心の深さを示していた。

(地区長 千葉 忠夫)

地区親睦旅行7周年記念行事開催

玉縄地区老連

世界一高い「東京スカイツリー」と国立演芸場の笑点の桂歌丸師匠の演芸見学を計画したところ、実現することになり、8月17日(金)に開催が決定した。

玉縄地区より大型バス2台90名は一路東京へ。

加藤地区長は記念行事の説明と、今後は親睦と絆を強めていきたいと挨拶。奴田連合会長より、「今日は、東京スカイツリー見物と桂歌丸の演芸を楽しんでください。今後は連合会設立50周年を迎えるので、記念事業を検討しますので提案と協力をお願いしたい」と挨拶があった。

間もなく、「東京スカイツリー」駐車場に近づく。相当な混雑が予想されるので、単独行動は取らずに、グループ・クラブ単位で行動し、わからない時は係員に聞くことと、集合時間に集まらないとバスは移動するため時間厳守で行動する。地下駐車場よりエレベーターに乗り、4Fの出発エレベーターにて乗り換える。40人乗りの「天望シャトル」は日本最速の分速600



メートルを誇るエレベーターで、50秒で「天望デッキ」へ。乗った瞬間昇る速さに驚く。デッキには多くの見物人がおり、迷子にならないようにする。「天望デッキ・350メートル」からの展望は東京湾・お台場・東京タワー・富士山・新宿・東京ドーム・上野・浅草が目下に一望でき見事な景観であり、隅田川が真下に流れ、またガラス床の上に乗り、真下に広がる米ツツの車に迫力ある眺めを楽しめた。玉縄地区の旅行だから、ゴマをする必要なし。

(地区長 加藤 好雄)

地区の奉仕活動 御霊神社の清掃

坂の下なぎさ会

私たちのクラブは毎月1日・15日に長谷坂の下の御霊神社の清掃活動をこの15年続けております。この神社は鎌倉権五郎が主祭神で、境内の鳥居のすぐ前に江ノ電の線路があり、また奇祭・面掛け行列で有名です。

清掃は、夏は朝6時、冬は6時半から常に14、15人が集まり、来た順に行っています。

これは、先輩方から引き継いで来たもので、もう30

年にもなります。

掃除が終わると、いつも彌宜さんが出してくださるお茶菓子と一杯のお茶を朝からいただいたながら、地区の情報や単位クラブのことなどのおしゃべりが楽しみです。

先日は、鎌倉ケーブルテレビに取材され、放映されました。

これからも、皆で手を携えて、体調に合わせ元気に続けていきたいと思っております。(会長 萩美枝子)



やまもも川柳

本阿弥光敬 選

宿題「喋る」

白扇会 寺嶋 幸子
鮮やかな頼み上手の寝め言葉
眼で喋り身体で笑う逞しさ

白扇会 大谷 直吉
家訪問お喋りを聞く役無し
仏壇に喋れば奥にこだます

白扇会 村尾巳代子
お喋りも夫とすれば又楽し
長電話お喋りすぎて煮物こげ

長谷甘縄会 原 俊子
口だけは歳はとらずに良く喋る
アルコール入れば寡黙が良く喋る

浄明寺 北條 乃
お喋りでストレス飛ばし良い笑顔
お隣りと今日もお喋り良い習慣



西御門 辰巳 佳史
喋り好きまだ飽きたらぬ夢の中
お喋りも寝食ともに健康法

台 柏寿会 新倉キヨ子
お喋りは健康のもと母がいう
クラス会お喋り上手人気者

城廻 和田 雅子

おしゃべりは薬より効く治療薬
お喋りで心の憂さが跳んじやった

城廻 角井 佑子

自慢話ちょっぴり嘘も混ぜてある
間をもたす苦し紛れの無駄話

城廻 宇野 笑子

あけすけのおしゃべりがいい八十路坂
おしゃべりも生きた分だけ深い味



上町屋ゆとり会 沼上 賢一

人前で得意に喋る綺麗ごと
喋りすぎ何を言ったかまともらず

西鎌倉福寿会 羽鳥みつお

お喋りも繰りごになる年のせい
お喋りが「沈黙は金」おさえおり

笛田珀桜会 原田 光

喋らずにハート射止める歳の功
お喋りが若くしているクラス会

自由吟

白扇会 村尾 巳代子

三途の川一緒に渡ろう夫婦して
球を追うグラントゴルフ歳忘れ

上町屋ゆとり会 沼上 賢一

水面下地震予告の難しさ
江ノ電で鎌倉詣で趣味の内

城廻 和田 雅子

電車内美容室ではありません
誕生日毎年目標お片づけ

城廻 角井 佑子

足跡を夫婦で作る半世紀
気軽だと目標などの無い暮し



城廻 宇野えみ子

一人居は電子音にも対答え
気楽ですなんでもありのフアッションで

岩瀬第三春秋会 荒木 隆一

電気料上げたついでに給料も
東電が当然ですと値上げいう

上町屋 前山てる子

母の日も父の日もくる小さな荷
笛太鼓同じ音色で受けつがれ

西鎌倉梅鶯会 羽鳥みつお

各上の争い止まず歴史泣く
平和まで神仏の加護届きかね

山ノ内梅鶯会 山下カヨ子

生きている証なのかな悩みごと
買い物すお金きにせず使う夢

笛田珀桜会 原田ダルマ

仏教は心の絵師と深夜便
旧友の招き嬉しき能舞台



講評

川柳を作句するには、助詞の使い方が大切だと言われています。助詞はいろいろな意味を持ち五・七・五の上五から中七につづく「てにをは」一字でニュアンスが違ってきます。

鎌倉に幕府の跡を訪ね行く
鎌倉へ幕府の跡を訪ね行く
意味は同じことですが、比べてみると「鎌倉に行く」は近くに感じ、「鎌倉へ行く」は遠く感じます。

お喋りは人生最大の楽しみとも言われています。皆さんのお喋りを拝見して、もう一捻りの推敲が欲しいところでした。

（光敬）

次回の川柳募集

一、宿題「そっくり」

（例句）

スピーチのコピーが続く披露宴 工
贋作とは知らぬが仏コレクション 東風
争えぬ血筋顔から声までも 剛道
飼主の性格そのまま犬が継ぎ すみ子
人間が俺そっくりと猿の自負 一步

二、自由吟（雑詠）

毎日の生活や身の回りの出来事を
自由自在にユーモアの切り口で詠んでください。

三、はがきに各3句以内（住所・氏名・所属クラブ・年齢）ご記入ください。発表は70号に記載致します。

※締切 25年1月25日

送り先 教養部事務局 原田 光

（鎌倉市笛田4-11-5）



老後も楽し 孫あれば

荒木 隆一

長女の孫娘は今年 2 年生になった。両親は共に小学校の教師なので、1 年生の時から放課後は歩いて 30 分程の学童保育所へ行っている。

私たちじいじ・ばあばは、その学援隊として安全パトロールを買って出て、校門から学童保育所までをともに歩いている。

1 年生から 3 年生までの数

人の子どもたちと道草やおしゃべりをしながら歩くその時間は実に楽しく、3 年近く前に左股関節骨折をした私だが、これがまた最高のリハビリになるらしく、怪我をしたことを忘れるほどだ。

週に 2 回月曜と木曜は、夕方再び学童保育所へ迎えに行き、親が来るまで入浴や夕食をともしながら、孫にその



日の話を聞くのがこれまた楽しく、子育ても楽しかったが孫育てもそれに劣らず楽しく、齢をとるのを忘れていた。まだ、ぼけてはいられないと老婆と張りきっているこの頃だ。

鎌倉市健康福祉部 高齢者いきいき課に聞きました

みらいふる鎌倉の課題について

原田 本日は、みらいふる鎌倉の事務局担当課である高齢者いきいき課から筒谷課長をお招きしました。

平素から秋山事務局長にはみらいふる鎌倉の活動全般にわたり大変お世話になっておりますが、平成 26 年に創立 50 周年を迎えることも踏まえて、今後のみらいふる鎌倉の課題や問題点などについて、忌憚のないご意見、アドバイスをいただきたいと思いま

筒谷課長 皆さんの活躍は広報紙「やまもも」をはじめ、鎌倉ケーブルテレビで放映している「元気のすすめ」等で拝見しています。行政としても高齢社会の中心的役割を果たしていただいておりますことに感謝申し上げます。

昨年の東日本大震災以降、地域の大切さや、人と人の絆が大切であるの思いが深まっています。そのような中で、鎌倉市ではまちづくりに

はまず『人と人のつながり』を大切にすることが地域づくり、地域の活性化につながる

と考えています。高齢化が急速に進む中で、みらいふる鎌倉の皆さんには、その仕組みづくりを設ける中での核となる存在になっていただきたい。

大変失礼ですが、みなさんは自由になる時間をたつぷりとお持ちです。その時間と、これまでの人生で培われてきた経験・知恵・知識を存分に発揮していただき、我われ行政と一緒に課題を共有して、あたたかい温もりのある都市づくりのお手伝いをお願いしたいと思います。

原田 時代の流れもあります。昔で言う『向こう三軒両隣』の精神がなくなっていました。『絆』が今、本当に求められているのだと思います。

みらいふる鎌倉では、高齢者相互の支え合い、そして地域づくりの観点からも前々から見守り活動に力を入れている

ます。また「人と人のつながり」という観点では世代間交流にも力を注いでいます。今後はもっと行政とタッグを組んで、補い合いながら進めていきたいですね。

奴田会長 市長にも申し上げていますが、我われは知恵も経験も持っているので上手く使ってほしいんです。課長がおっしゃる通り、まちづくりのためには、まず人と人の絆、つながりがあってこそ。みらいふる鎌倉と行政の課題は共有していますから、タッグを組んでいきましょう。

しかし、みらいふる鎌倉も課題を抱えています。団塊世代の方々への加入促進と補助金の問題です。他の市では、60 歳になると自動的に老人クラブに入会するような形をとっているところもあります。これは行政と老人クラブのタッグなくしては実現できません。

また補助金については、財政難の昨今あまりご無理は言

えませんが、行政の手が届かないところ、すき間を埋める活動を担う私たちに対して、もっと積極的にご理解をいただきたいところです。

筒谷課長 皆さんの活動が素晴らしいし、貢献してくださっているのは承知しておりますが、厳しい財政の中、市としても難しいところです。私たちは担当課として、市内高齢者の方々に、みらいふる鎌倉の取組みや活動をもっと PR していきたいと思っています。

行政、市社協、みらいふる鎌倉がネットワークを創って、地域づくりから豊かな高齢社会の構築につなげたいと思います。今後とも協力のほどお願いいたします。

会員文芸

◆俳句

七里ヶ浜句会 阿部 弥生

秋天にゆったり弛まず風車かな

対岸の二基の風車よ群とんぼ

七里ヶ浜句会 加野 遥

今もって鯨尺にて縫う浴衣

新涼や箱根連山さわやかに

七里ヶ浜句会 下條 怡生

地下はケでハレの地上で蟬うたふ

土牢の刃嚙む皇子秋の水

七里ヶ浜句会 権藤 敦子

夏の海さざ波輝くあかね色

植物園色とりどりにばらみだれ

省エネでひたすら待つや秋の風
山の内梅鶯会 山下 カヨ子
すだれより涼風入り談笑す
菊日和心安らぐ日となりぬ

◆短歌

寺分白扇会 本田 憲代

喚声を挙げて金環日食を

観察する子等未来頼もし

終の日の近づきをれど澆刺と

一日を生きむ終のなきごと

台 柏寿会 新倉 キヨ子

路地裏の三人よれば話し夢中

笑いをかくす知らぬが佛

七里ヶ浜句会 佐々木和子

わかめ採り一つに榮螺ついてきし

庭の池稚魚の数のかわいさよ

七里ヶ浜句会 敦賀 笑子

ひとり居の独り占めして十三夜

潮騒は七里の秘話の浜の秋

七里ヶ浜句会 藤枝 笙

囀りの合間に合わせ法師蟬

飛び出して打水かぶる半裸の子

七里ヶ浜句会 本間 克子

浴衣着てハイヒールはく乙女たち

夏は去り赤く群れてるアキアカネ

七里ヶ浜句会 松原 薫

熱帯夜微かな風に寝息たつ

いたわりつ散歩の夫婦鰯雲

七里ヶ浜句会 松本 規夫

省エネの厳しき夏も峠越し

鎌倉散歩

東慶寺



本堂

今回は、尼寺の時代は駆け込み寺、縁切り寺として、また男僧の寺になってからは釈宗演、鈴木大拙による禅の発信の寺として、そして近年は花の寺としても人気の高い東慶寺を訪ねます。

◇ ◇ ◇

北鎌倉駅前の鎌倉街道を南に200メートル程進むと東慶寺の入り口です。江戸時代に女達が駆け込んだ大きな門が建っていたとのことですが、今は松ヶ岡、東慶寺と白地に彫り付けた石柱が立っているだけです。この松ヶ岡とは川柳に詠われた東慶寺の別称で、駆け込み、縁切りということが格好の題材となり、「縁なき衆生を再度する松ヶ岡」「くやしきは尋ね来て見よ松ヶ岡」など数多くの句が残っています。

参道正面には、こじんまりした石段と山門があり、いかにも尼寺であった頃の風情を感じさせます。

門を入ってすぐ左手、鐘樓前には女流作家田村俊子碑があり、高さ90センチと小ぶり

な自然石に、表は自作の「女作者」の中の一節が刻まれ、裏面には銅版の略歴がはめこまれていきます。ロシア文学者湯浅芳子、山原鶴等旧友、知友によって建てられたもので、昭和36年4月に除幕式と第一回田村俊子賞の授賞式がおこなわれ、瀬戸内晴美（現寂聴）が受賞し、記念にうんと八重の桜を植樹しました。

参道両側には紅白の梅が植えられ、正面には小さな釈迦如来の坐像があり、その背後には花菖蒲をはじめとする四季折々の花々が植えられています。

右手黒塀の中は庫裏、書院で、黒塀の先は前庭にじだれ桜を配し宝形作りの屋根が美しい本堂で、入り口では歌人四賀光子の覚山尼をたたえる歌碑が、女性救済に乗り出した慈悲の人の強い意思を参詣者に強く訴えかけています。

本堂の西隣には水月堂があり、有名な水月観音半跏像（県重文）が安置されています。鎌倉時代の作品、像高は僅か34センチと小さな仏像ですが、岩座の上にゆるやかに腰をかけた水面に映る月を眺めている姿が人々の苦しみを優しく受け止めてくれるようです。



水月観音半跏像



宝蔵前の秋明菊

この像には多くの賛辞が寄せられています。水月観音の他にも仏像彫刻、時絵、工芸、絵画、近世の書、古文書等多くの文化財があり、水月堂の隣の宝蔵で展示されています。

宝蔵の裏山には住職、釈宗演の遺志を引き継ぎ宗教学者鈴木大拙が設立した松岡文庫（非公開）があり、仏教、禅の研究、普及活動を行っています。

ます。

宝蔵の先は墓地への通路で、岩タバコの群生する崖を過ぎると、右側小高くなった所は開山覚山尼をはじめ歴代住職の墓地で、歴史の重みを感じられる場所です。

また左手は山裾を回って檀

編集後記

「やまもも」69号の発行にあたり

▼今までの多くの先輩各位のご努力に、敬意と感謝をしながらも新しい一歩を踏み出しました。

その一歩として今回は、みらいふる鎌倉会員の方々の活躍の姿をできるだけ多く記載するよういたしました。まだ不十分な点は、これから前進させて参りますのでよろしく。

また、近く迎える創立50周年の記念事業の各種企画とその推進に関係部門とともに全力をつくして参ります。

（原田）

原稿募集—投稿規定—

◎自由題とします。

皆さんの忌憚のない心の叫び・生き方などの率直なご投稿を期待しております。『私の大正・昭和史』への投稿もOKです。600～800字程度。写真などは1～2枚まで。

◎送り先：鎌倉市役所高齢者いきいき課内みらいふる鎌倉事務局まで（鎌倉市御成町18-10）
◎締切：平成25年1月末日
◎紙面割りの都合で、原稿の採用、内容の一部修正等については一任願います。原稿等は返却いたしませんのでご了承ください。

◆ご協賛各位へ御礼◆

「やまもも」発行に際しご協賛いただきました各位に厚く御礼申し上げます。本紙は会員相互の交流と生きがい向上に、さらに内容の充実に励んでまいります。今後も倍旧のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

みらいふる鎌倉